

## 令和4年5月 定例記者会見（報告）

1 日 時 令和4年5月20日（金）13時～14時

2 会 場 庁議室

3 出席者

<報道機関> 山形新聞、読売新聞、河北新報、NHK

<市> 市長、秘書広報課長

4 記者倶楽部からの質問事項

(1) 3年ぶりに上杉まつりが開かれ、市民生活にコロナ前の明るさが見え始めた一方、市内のコロナ感染者数は高い水準が続いています。あらためて、日常生活の回復と感染対策について、市長の考えを教えてください。

(2) その他

5 内 容

○秘書広報課長

これより令和4年度5月の定例記者会見を開催いたします。本日の記者会見では、初めに市長から情報発言があります。その後、記者クラブからいただいた事前の質問に回答させていただき、質疑に入らせていただきます。よろしくお願いいたします。

○市長

山形新幹線を活用した精密機械部品の輸送企画についてです。以前、置賜全体の農畜産物の輸送に新幹線を活用して上野駅で販売したことがあります。コロナの影響で長い間 JR の利用も低迷してきました。米沢市として、新たな福島米沢間のトンネル工事も控えており、少しでも JR の支援をしたいということで、3月中に新幹線「はこビュン」を活用して精密機械を輸送することを考えていたのですが、地震の影響で先伸ばしになっていました。5月26日に、米沢の事業社3社ほどが新幹線を活用して精密機械の部品を東京へ送り、東京駅からはそれぞれ首都圏の事業社へ届けます。農産物・食品に限らずに、米沢あるいは置賜全体の特徴を活かしたものづくりを「はこビュン」を活用して対応していきます。米沢市の情報発信として、お知らせいたします。よろしくお願いいたします。

今回のご質問は1点です。「3年ぶりに上杉まつりが開かれ、市民生活にコロナ前の明るさが見え始めた一方、市内のコロナ感染者数は高い水準が続いています。あらためて、日常生活の回復と感染対策について、市長の考えを教えてください。」というご質問でした。

コロナも3年目に入り、米沢市においては一昨年の3月30日に発生して以来、県内含め全国的な感染拡大で国民あるいは市民のコロナに対する不安は大きかったと思います。世界的なパンデミックで、まだ収まっていない状況です。コロナという新たなウイルスによる感染ということで、国民・市民も不安や恐怖に陥ったと思います。それから2年以上が経ち、現在オミクロン株という変異ウイルスが広まっていますが、一番大変だったのは蔓延防止や緊急事態宣言で、国からだいぶ制限がかけられたことです。第6波の中で、現状全国的には1日2、3万人の感染者が出ていますし、県内でも200人程出ています。そのような傾向が続いており、全ての日常生活を取り戻せる状況には至っていないと思います。

その中で今年度、上杉まつりを開催いたしました。以前はコロナウイルスにより、医療がひっ迫してしまい、一般医療にも影響を及ぼしました。感染防止により、なんとか医療の崩壊を食い止めていくという大きな流れがありました。ただオミクロン株は、感染者が多数出ている割合にしては、自宅療養者や宿泊療養者が多くなってきています。そのことにより、以前に比べて病院での治療が少なくなっています。そのような状況を鑑みて、上杉まつりを開催いたしました。すでに発表しましたが、17万人を超える方々が上杉まつりに来ていただきました。様々な業種の方から、賑わっていたという話がありました。また市民の方から、「コロナ禍でなぜ開催したのか。」という声は届いておりません。一方で、「やっぱりおまつりを開催して正解だったな。」という声を多くいただいております。上杉まつりは、県内の春以降のおまつりのトップを切ったものなので、これが県内のイベント・おまつりに波及していけば、県内の経済も全体的に回復していくと思います。先日の13市の市長会の際に、米沢市に続いて他の市もおまつりを開催するという声も多くありました。

米沢市は、今でもコロナ感染者が増減を繰り返している状況です。しかし、行政としてこの状況を仕方ないとばかり言ってられません。子どもが感染して家庭内で広がるということが多い現状です。その大きな原因として、低年齢の子どもたちのワクチン接種が思うように進んでおりません。また3回目のワクチンの接種率が低い傾向があり、米沢市の3回目接種率は県内の平均より低くなっています。市民の方に極力接種を受けていただくよう、担当課に指示をしてチラシを配りました。コロナ感染対策をしていく中で、社会・地域経済を回復させていくことが、我々の大きな課題だと思います。社会・経済を回していくと同時に、コロナ感染対策について市民の方に啓蒙・啓発をしていきたいと思っています。

○記者

まつりに関して手ごたえ・良かった点と、開催して見えてきた今後の課題はありますか。

○市長

市民の方の感染防止をお願いしながら、国全体のコロナ感染者がどのような傾向を辿るかをしっかりと見ていく必要があると思います。屋外でのマスク着用についてもこれから政府から発表されます。これまで基本的な感染対策や人流の抑制もしてきま

したが、しばらくの間は感染予防を徹底しながらイベント・おまつりを開催していくことを市民の方にお知らせしていきます。他地域から来られる方に対しても、何らかの方法で感染対策を呼びかけながら、これからのイベント・おまつりを実施しなければならぬと思います。

○記者

子どものコロナ感染が増えていますが、対策はありますか。

○市長

ワクチン接種率は低い状況です。強制ではありませんし、副反応の問題などもあると思いますが、医療機関でできる限りワクチン接種を受けていただいて、少しでも子どもたちの感染をなくしていきたいと思います。低年齢の子どもたちが感染してしまうと、親あるいは祖父母が関わる必要があります。家庭内感染が増えてしまいます。ワクチンによる効果はあると思いますので、極力受けていただきたいと思います。

○記者

市内の小学校などで子どもの感染があった中で、制約を受けてきた子どもたちへの心のケアという視点で、何か考えていることはありますか。

○市長

現在、考えていることはありません。コロナが収束に向かえば、その段階でどのようなことに取り組んでいけるか、今後の対応を考えていきたいと思います。

○記者

「お子さまが新型コロナウイルスに感染した際の対応について」のチラシを作った思いやメッセージは何かありますか。

○市長

医療のひっ迫はなくなってきましたが、米沢市の感染者はずっと高止まりです。コロナに慣れてきてしまったのではないかと思います。その中で、もう一度感染予防・対策を進めていただきたいと思います。ご存じの通り、市の職員も感染しています。保育園・小学校の子どもが感染し、親が感染するのはやむを得ないですが、中にはどこで感染したかわからないというケースもありました。それではいけません。市民の方にコロナ感染予防をお願いする立場で、しっかりと感染対策に取り組んでいかなければならないという思いで、このチラシを作りました。

○記者

縁のある沖縄市が本土復帰50年を迎えましたが、何か思いはありますか。

○市長

復帰から50年が経ち、良かったなという思いがあります。米沢市は沖縄市と姉妹都市を結ばせていただき、交流も深まってきたと思います。復帰50年に向けて、米沢市と沖縄市は非常に濃い関係があります。上杉藩として最後の殿様である茂憲公が第二代沖縄県令として沖縄に赴いて、留学制度などを活用して復興に取り組んできたという背景があります。また伊東忠太先生も、首里城に深く関わっています。戦後の状況において、沖縄に行くと必ず訪問するのが、山形の塔、ひめゆりの塔、平和の礎

です。それらを拝見すると、戦争の悲惨さを目の当たりにすることができました。米沢市として、上杉家が沖縄市のために尽力されたということを誇りに思います。復帰から50年が経ち、姉妹都市である沖縄市はもちろん、沖縄全体との交流の場が増えてほしいと思います。

○記者

学校給食の反対について議論されていますが、市長としての考えを聞かせてください。

○市長

この問題に関しては、今日まで議会で色々と議論されてきました。議会の中でも賛成、反対があります。何をするにしても、市民の方の賛成、反対があるのはやむを得ないと思います。いずれにしても学校給食センターの取り組みについて、議会で提示をして議決をいただいておりますので、粛々と対応していきたいと思います。今後の学校給食のあり方については、今までの学校給食よりも良いものにしていきたいと思っています。また地産地消・食育に関しても今まで以上のものにするために、どのような取り組みができるか、色々な方と連携を取りながら進めていきたいと思っています。

○秘書広報課長

これを持ちまして令和4年度5月の定例記者会見を終了いたします。